様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８３００４５

研究課題名（和文）医療の介入による逸脱増幅に関する研究―性分化疾患と薬害ＨＩＶ感染被害を中心にして

研究課題名（英文）Deviance Caused by Medical Treatment: Cases of HIV and DSD (Disorders of Sex Development)

研究代表者
入江　恵子（IRIE, KEIKO）

京都大学・アジア研究教育ユニット・研究員

研究者番号：１０６３６６９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,300,000円、（間接経費）　690,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、医療の介入を受けることによってその身体の「逸脱」した状態が（「治癒」ではなく）さらに悪化されるケースに着目した。具体的には、性分化疾患と薬害HIV感染被害当事者のケースをとりあげ、それぞれの当事者の身体経験のうち、相違点に着目し「逸脱」経験のメカニズムについて明らかにした。「逸脱増幅」は、「逸脱の深化」と「二重の逸脱」からなっていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to disclose the mechanism of the deviant condition which was caused by medical treatment. This research mainly dealt with two conditions. One is DSD (intersex) and the other is HIV infection due to tainted blood product.
It was found that there can be a basic pattern of medicine-originated deviance, which shows the process of "enhancement" of deviance. However, in the deeper level of patients' experience, there were each kinds of pattern of deviance. From the DSD (intersex) case, it was found the pattern of "deepening" the deviance. About the HIV case, the pattern of doubling the deviance was found, which can be named as the pattern of "re-deviance."

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：医療社会学　医療人類学　逸脱研究　ジェンダー研究　身体

１．研究開始当初の背景

医療の介入を受けることによって身体の「逸脱」状態が増幅されるケースは、医療技術が日進月歩で進化している現状を考慮すると、今後とも増加することが考えられる。医療の逸脱認定の基準・範囲とその実践には、技術の進歩だけではなく、社会的背景も大きくかかわっている。このような状況の影響を最も受けるのは患者であり、困難を強いられる当事者の意味世界・社会的世界を明らかにすることは社会学的急務であると考えられる。しかしながら、主な研究はチェイスや山崎らのように量的調査に基づいたもので、必要となる質的調査はほとんどなされていない。そこで本研究は、このような状況に置かれている２つのケースを同時に取り上げ、当事者の意味世界・社会的世界を描き出すという着想を得た。

具体的には以下２つのケースを扱い、両者に共通する「医療によって逸脱が増幅される経験」を抽出し、比較分析を行ってきた。

（１）性分化疾患（インターセックス、DSD: Disorders of Sex Development とも）と呼ばれる、染色体や内・外性器など、身体の解剖学的状態がいわゆる「標準」の男・女の型から異なる状態をもつ当事者のケース。性分化疾患として医療と関わることによって、さらなる違和感や不具合を経験する当事者への聞き取り調査を行い、当事者らが自らの身体をどのように捉え、社会を生きているのかについて明らかにした。性分化疾患については、フィールドを北米社会におき、現地における当事者を対象に研究をすすめてきた。

（２）薬害 HIV 感染被害者のケース。血友病疾患のために受けた医療処置により、HIV に感染した当事者に聞き取りを行ってきた。特に当事者の身体性（身体が HIV に感染すること）に着目した。それにより、多様な経験を持った当事者らが、個人のライフステージに際し「感染」の意味を変容させていることを明らかにした。フィールドは関西を中心とした日本であり、感染被害者のみならず、医師も調査の対象としてきた。

（１）と（２）により、性分化疾患と薬害 HIV 感染被害当事者が自らの身体の経験を通じて構築している意味世界を明らかにした。しかしながら、当事者の社会的世界を明らかにするには、より広い文脈で多角的に捉える必要があると考える。特に当事者と社会的世界を媒介としている要素、つまりは家族関係と、社会運動への参加について明らかする必要があるが、これまでの研究ではこれらの点については明らかにできていなかった。

２．研究の目的

本研究は、身体的「逸脱」を抱える当事者が構築する意味世界・社会的世界について明らかにしようとするものである。

そのために、まず家族関係と社会運動への関わりを明らかにする。その後、医療によってその「逸脱」が増幅された当事者が、医療制度にまで影響を与えながら、家族関係と社会運動とのかかわりを通じてどのような社会的世界を構築しているのかについて明らかにする。

この目的のために、本研究は、特に以下の３つの研究アプローチにより研究調査を遂行する。

（１）家族研究：当事者の家族研究を遂行する。当事者の個人的経験と社会構造とのあり方をより深く追究するために、家族との相互作用をとりあげる。

（２）社会運動研究：性分化疾患と薬害 HIV 感染被害における当事者活動は、当事者の人々の不安と制度化の中で、当事者にとって「外」の社会、いわば公共圏の役割を果たしてきた。ここでは、当事者活動をはじめとした社会運動は、いかにして公共圏の役割・機能を果たし、そして変容していったのかを明らかにする。

（３）身体研究：当事者と社会構造との関係性を構築するものとしての、当事者の身体研究である。

また本研究は、医療社会学、家族社会学における、マイノリティのライフヒストリー研究、社会運動研究と領域を共にする。社会において「逸脱」とされる身体を生きる当事者の経験を、社会的・文化的文脈に位置付けるという、逸脱論の分析視角から検討することにより、医療と関わることにより困難な生活を余儀なくされる当事者の社会的世界を明らかにする。

３．研究の方法

効率的に研究を進めるために、初年度では家族関係に焦点を当て、次年度では社会運動に焦点を当てた。

具体的な研究方法は、以下の３つである。①分析枠組みの精緻化（これまでの研究から得られた概念の発展、新しい概念の構築）②国内調査（聞き取り調査、フィールド調査、資料収集）③海外調査（聞き取り調査、フィールド調査、資料収集）

まず、①分析枠組みの検討においては、申請者がこれまでの聞き取り調査から導き出した、当事者の身体の綜合作用の概念図をさらに理論的に位置付け、意義の明確化を行った。特に、逸脱論と近接する理論からこの概念図の特質・意義を再考し、概念の精緻化を行う。具体的には、ミードや宝月らによるシンボリック相互作用論における議論、構築主義的アプローチ、身体論との比較を行った。

②の国内調査に関しては、まず初年度は、主に当事者の家族関係について聞き取りを行った。当事者 MERS（ネットワーク医療と人権）を通じて、活動に関わっている当事者に対して個別に聞き取り調査を行うと共に、感染被害が発生した当時に発行されたニュースレターなどの資料の収集を行った。2 年目では、初年度に明らかになった当事者の家族

関係についてのデータを基に、当事者の社会運動との関わりを明らかにする聞き取り調査を行った。

③海外調査でも、国内調査と同じく、主に当事者の家族関係について聞き取りを行った。性分化疾患の当事者活動グループの協力の下、当事者に対し聞き取り調査を行った。最終年度では、前年度の調査データをふまえ、当事者の社会運動との関わりを明らかにする聞き取り調査を行った。

調査研究の拠点としては、所属機関である京都大学がある関西に置いた。性分化疾患の主な調査対象地は北米である。主な対象地としては、いくつかの当事者運動の拠点があるロスアンジェルス、ポートランドとシカゴがあり、これらを海外調査の拠点とした。本研究は、相互作用論、社会運動論、身体論を用いて聞き取り調査にて得られたデータを分析した。

４．研究成果

本研究では、当事者の社会的世界を明らかにするために、まず家族関係と社会運動へのかかわりを明らかにした。その後、医療によってその「逸脱」が増幅された当事者が、医療制度にまで影響を与えながら、家族関係と社会運動とのかかわりを通じてどのような社会的世界を構築しているのかについて、ダイナミックな図式として展開しながら明らかにした。

比較社会学の手法により、インターセックスと薬害HIVでは、社会運動の発展において、逸脱の諸相の具体的な相違がそれぞれ異なった影響を与えていることが明らかになった。身体の「逸脱増幅」の過程は、具体的には「逸脱の深化」と「二重の逸脱」のふたつの過程からなっており、そのメカニズムは社会からのフィードバックと深い関連があることを明らかにした。

急激に発展する医療科学技術は、人びとの理解や倫理観を置き去りにしながら、その対象となる身体を混乱した状況に陥れる危険性もはらんでいるのである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

1. “ Beyond “ Physician-Patient ” Relationship: A Case study of HIV infection due to tainted blood products in Japan ”
Keiko Irie, 『West East Journal of Social Sciences』, 19-32,
(平成25年3月) 査読有

2.「インターセックス／DSD の名称の変容と身体への回帰」
入江恵子、『京都大学グローバル COE プログラム「親密県と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」ワーキングペーパー』、23-34、(平成25年3月)

〔学会発表〕（計　　５件）

1. "Deviance Caused by Medical Treatment: Cases of HIV and DSD (Disorders of Sex Development)." The Pacific Sociological Association （平成26年3月）アメリカ合衆国ポートランド開催

2. "Possibility of the 'New' Intimate Sphere: HIV infection due to tainted blood products in Japan." Japan Studies Association Conference （平成26年1月）アメリカ合衆国ホノルル開催

3. "Perspectives on Deviance: As a Result of Medical intervention to Body." The International Conference for Academic Disciplines （平成25年3月）アメリカ合衆国ネバダ開催

4. "Perspectives on Deviance Caused by Medical Treatment: Cases of HIV and DSD (Intersex)." 日本社会学会第 85 回大会（平成24年11月）北海道開催

5. "Beyond “ Physician-Patient ” Relationship: A Case study of HIV infection due to tainted blood products in Japan." West East Institute 2012 Zagreb Conference （平成24年10月）クロアチア・ザグレブ開催

〔図書〕（計　　１件）

「第17章　アメリカのジェンダー」、入江恵子、167-173
『アメリカを知るための 18 章：超大国を読み解く』 杉田米行編、大学教育出版（平成25年10月）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
https://www.gcoe-intimacy.jp/staticpages/index.php/irie_ja

「京都大学グローバルCOEプログラム　親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点個人ページ」

６．研究組織
(1)研究代表者
入江　恵子（IRIE, Keiko　）
京都大学　アジア研究教育ユニット　研究員
研究者番号：10636690

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：